

小中連携の取組～生福小 向井教諭と共に～

～1年生道徳(授業者 寺地教諭)の研究授業・授業研究を実施しました～

10月19日(月)に小中連携の一環として、生福小学校の向井教諭をお招きして、道徳の研究授業・授業研究を実施しました。

道徳の授業は、以前と違い、教科となり、検定教科書を用いて授業を行っています。また、記述式による評価も行います。

道徳の教科化の背景としては、さまざまな調査結果から、児童生徒が自分に自信をもてず、人間関係に不安を感じるなどの自尊感情の低さや、生命に対する想像力の低下、思いやりの心の欠如、社会参画意識の不十分さ等が指摘されるようになり、それがいじめや暴力行為、大人社会における目を覆いたくなるような事件等と大きく関係しているのではないかと考えられるようになったこと、また、このような児童生徒や大人の心の危機に、従来の道徳の授業が必ずしも十分にできていなかったことがあげられます。

今回は、生福小学校の向井教諭と連携し、小学校時の資料や説話で振り返り、もう一度、生命の尊さについて、深く学びました。



向井教諭による、小学校時の学習内容の振り返り



寺地教諭による、本時の学習内容の確認と説話

生徒の学びの事実から、どれだけ学びが深まったか、どのような手立てが有効かを議論します。

いちき串木野市教育委員会 岡留主幹兼学校教育係長による指導講話



多様な考え方ができる道徳的課題を生徒一人一人が自分自身のことと捉え、しっかりと向き合う「考え・議論する道徳」が展開できるよう、今後も研修に努めていきます。